

2018WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 7 (7/25)

いよいよ、熱い熱い5日間の始まりを迎えました。朝食、ホテル発は各クルー別に行いました。

日本代表チームの先陣を切るのはスペアレースBW1xの安井選手(早稲田大学)になります。天候も安定した中で、選手・スタッフ共にほぼ予定どおりの動きでレースの準備を行いました。

レースを明日からに控えたオープンカテゴリーのBW2x、BM2xクルーは午前中に乗艇練習を行いました。



2台分の運搬能力を誇る連結バス(写真左)も、ラッシュアワー状態(写真右)の中、コースに向かいます。

トレーニングクルー



BM2x 左からB木村選手(日本大学)、S櫻間選手(同志社大学)



大林ヘッドコーチのアドバイスを受けるBW2xクルー。
左からS米川選手(早稲田大学)、B中条選手(DENSO)

日本代表チームの一番手はスペアレースに挑む安井選手(早稲田大学)です。入念にアップしレースに向かいました。。

12:30 スペアレースBLW1x

スタートでドイツが飛び出すものの、落ち着いたリズムに乗って第1クォーター内でトップに立つ。第2クォーターに入ると力強いドライブのイタリアがじりじりと上がってくる。1000mもトップで通過するも予断は許されない状況でレースは進む。しかし第3クォーターに入っても日本の切れ味は冴えわたり、SR36をキープし続け一気にイタリアを突き放し、1500mの通過時は水を空けラストクォーターへ。

会場内のアナウンスでは「昨日誕生日を迎えたヤスイがトップでレースを引っ張っている。」と連呼する中、初の国際レースを堂々の1位でレースを終え日本代表チームとして最高のスタートをきった。



日本代表チームの先陣を切って出艇する安井選手(早稲田大学)



ドイツ(写真手前)、イタリアの両国に水を空けトップでゴールに突き進む。

15:30 BLM1x 予選

やや緊張しながらの出艇。スタートから各国が激しい主導権争いを繰り広げる中、やや遅れながらレースを展開。500mをトップから4.97秒遅れの5位で通過。4位までが準々決勝進出という条件の中、1000mでは3位のポルトガルとの差をジワリと詰めるも順位は変わらず5位で通過。第3クォーター、何とか4位以上に浮上したいところだが、4位ポルトガルが頑張りを見せ2秒以上の差をつけられ1500mを通過。万事休すかと思われたが、ここからトレーニングの成果を存分に発揮し、ラストクォーターをレース内のクルー中トップタイムで駆け抜け、ポルトガルとの差を一気に詰めながら3位でレースを進めていたデンマークをポルトガルと共に追い抜き1800m地点で4位に浮上。ラスト200mのデンマークとのラスト1本まで勝負がわからない展開の中、4位でゴールを駆け抜け準々決勝に駒を進めた。



↑やや緊張の面持ちで出艇する伊藤選手(早稲田大学)

1800m地点でデンマークとデッドヒートを繰り広げる伊藤選手(早稲田大学)→



15:50 BLW4x- 予選

スタートからオランダが飛び出し、フランス、日本と続く。500mをトップオランダと2.24秒差の3位で通過。何とかついていきたいところだが、第2クォーターでも少しづつさを広げられ、1000mではトップオランダと6.05秒差。2位フランスとも2.82秒差で3位は変わらず。第3クォーターもこの流れは変えられずにフランスとの差は3.95秒差に広げられるも、大きく崩れることはなく望みをつないで第4クォーターへ。

第4クォーターに入りギアチェンジに成功し2位フランスとの差を1.66秒差に詰めゴール。3艇中3位でゴールするも、明日に十分に望みをつなぐレースを見せた。



ゴール前、必死の力漕で2位フランスとの差を一気に詰めるBLW4xクルー。写真左からS瀧本選手、成瀬選手、高島選手(以上3名明治大学)、B石垣選手(法政大学)。

16:00 BLM4x 予選

スタートからスペインがぶっ飛ばし、それに各国が続く展開に。日本はトップスペインと3.77秒差で500mを通過。第2クォーターに入るとスペインをデンマークが猛追し主導権を奪いかけつつ1000mを通過。日本は5位のままだが、徐々に形成を盛り返し始める。第3クォーター、デンマークがスペインをかわしトップに躍り出た。日本は苦しいところを全体2位のタイムで第3クォーターをまとめ1500mでは3位に浮上した。ラストクォーター、トップはデンマーク、2位スペインに続き3位でフィニッシュ。練習の成果を発揮し、明日以降に十分期待を持たせてくれる内容でレースを締めくくった。



1800m付近を3位で通過する
BLM4xクルー。

写真左からS宮浦選手(中央大学)、3武田選手(関西電力美浜)、2新井選手(慶應義塾大学)、B一瀬選手(仙台大学)

16:50 BW2- 予選

スタートから滑らかに艇を動かすもハイレートで突っ込んでくる各国に少しづつ遅れをとり500m地点をトップから6.74秒差で通過。その後もトップ争いを繰り広げるアメリカとイギリスから大きく遅れをとるものの、自分たちのレース展開を大きく崩すことなく必死で前を追う展開に。苦しいレースとなったが、ラストクォーターでは4位スペインのラップタイムを上回るラップタイムを見せ、明日の敗者復活につなげた。



最後まで集中したレースを展開したBW2-クルー。
写真左からS高野選手(立命館大学)、B西原選手(東北大学)

各クルー、レース終了後は、それぞれバスでホテルに戻りました。

19:30 全体ミーティング

日本代表チームとしては、悪くない流れで大会初日を締めくくることが出来ました。明日は男女のオープンカテゴリーの2xとBLM4x、BLW4x、BW2- のレースがあります。引き続きご声援よろしくお願い致します。